



画像提供：ひかり味噌株式会社

味噌

名古屋税関管内の輸出品から

◆管内実績〔輸出額〕

13年連続前年比プラス！

◆税関別実績〔2019年上半期〕

輸出数量・金額ともに全国シェア1位！

日本人に馴染みの深い “味噌”。

味噌は、中国もしくは朝鮮半島を経てもたらされ、その歴史は飛鳥時代までさかのぼります。今でこそ日本の食卓に欠かせない味噌ですが、日本に伝わってからしばらくは、ぜいたく品として高級官僚の給与や贈答品に使われていました。庶民の食事に組み込まれるようになったのは室町時代からであり、味噌料理の発展基盤ができたのもこの時代であったと言われています。

また、栄養価の高い味噌は、戦国時代に武士が兵糧（戦陣食）として携帯したり、飢饉の際に飢えをしのぐ食糧として使われたりと、時代を超えて、人々の健康を支えてきたとされています。

近年においては、健康や美容に期待できる食品としてチーズやヨーグルト等の“発酵食品”が注目を集めしており、“味噌”も日本の伝統的な発酵食品の一つとして日本人の健康維持に役立っています。

このように 1300 年以上前から長く受け継がれてきた味噌ですが、近年、全国で味噌の輸出が好調であり、名古屋税関管内においても輸出量が増加し続けていることをご存知でしょうか。

そこで今回は、世界から注目を集めている “味噌” の輸出について特集しました。



①本資料でいう「味噌」とは、輸出統計品目番号「2103.90-100」を指します。

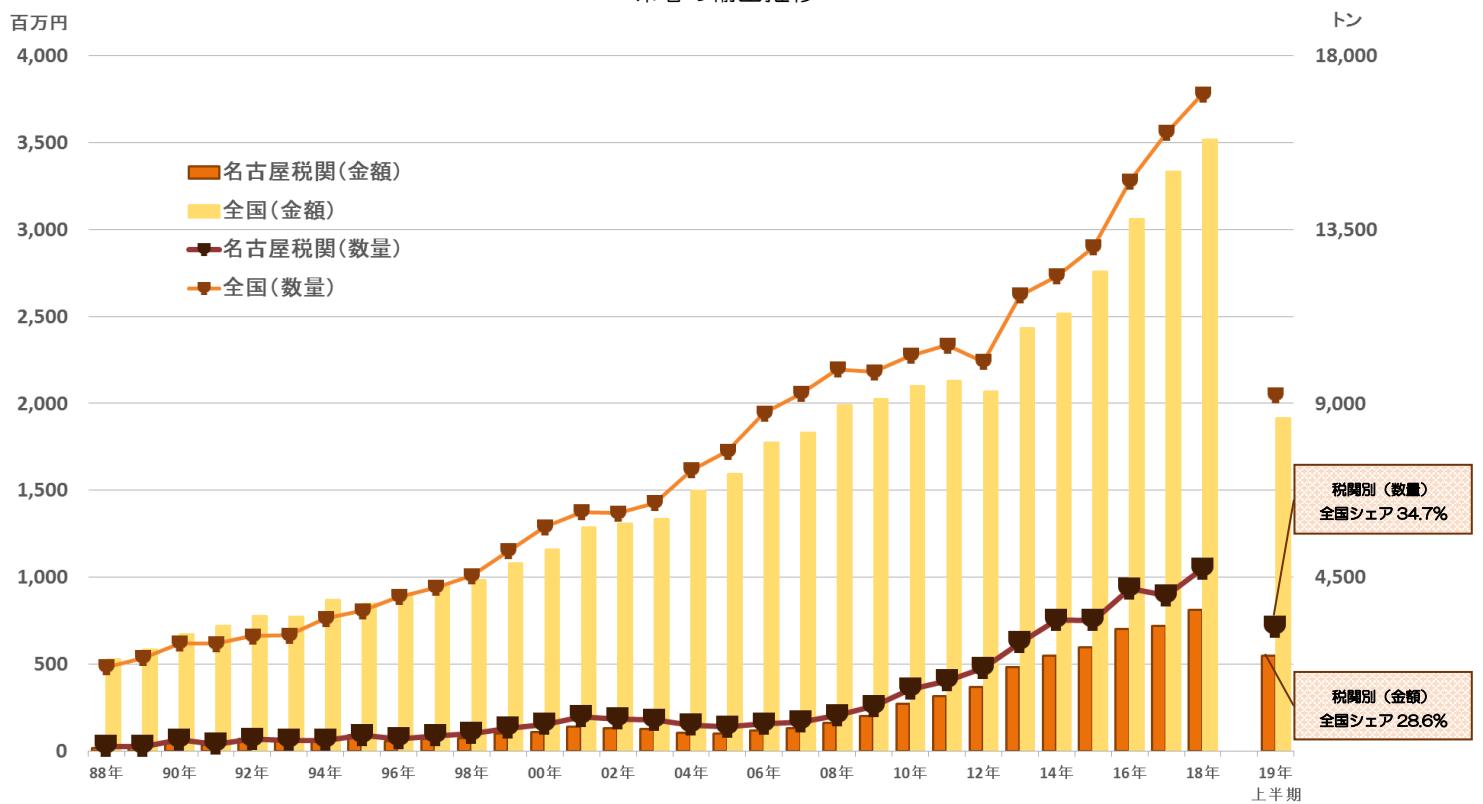
②本資料における、「味噌」の統計品目番号「2103.90-100」は、1988 年における統計品目改正後のデータを基礎として比較したものです。

③本資料でいう「過去最高」とは、②より、1988 年以降の実績となります

輸出実績推移

P.8 参照

味噌の輸出推移



輸出実績の推移をみると、全国・管内ともに右肩上がりに伸びていることがわかります。

2018年における輸出額は、全国で35億円、管内で8億円とともに過去最高を更新し、管内においては、2006年以降13年連続の前年比プラスを記録する結果となりました。2018年における輸出数量についても、全国で17,010トン、管内で4,713トンと、こちらも過去最高を更新しています。また、2019年上半期における税関別の全国シェアは、数量で34.7%、金額で28.6%とともに1位を記録しています。

さらに、30年前である1988年と比較すると、

数量は、全国で約7.8倍、管内で約40.7倍

金額は、全国で約6.7倍、管内で約47.0倍

となっており、管内における輸出量・金額が大きく伸びていることがわかります。

こうした背景として、「日本食は健康によい」というイメージが世界的な日本食ブームを引き起こしていることや、在日外国人や在留邦人の増加により、外国人が日本食に触れる機会が増えたことが大きな要因になっていると考えられます。

また、2013年12月に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、様々な和食に用いられる味噌にとって追い風となっていることも考えられます。

「医者に金を払うよりも、みそ屋に払え」

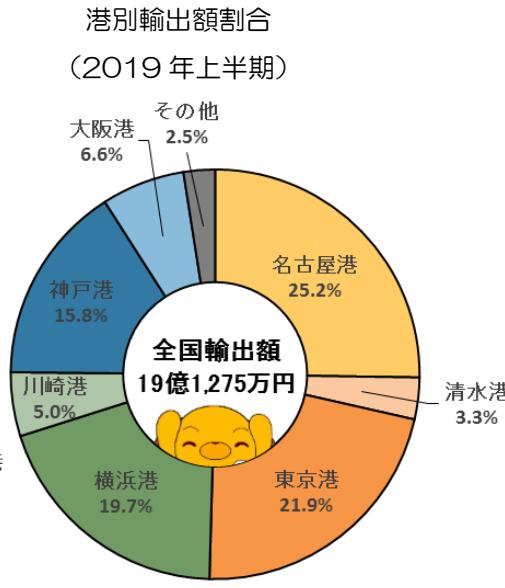
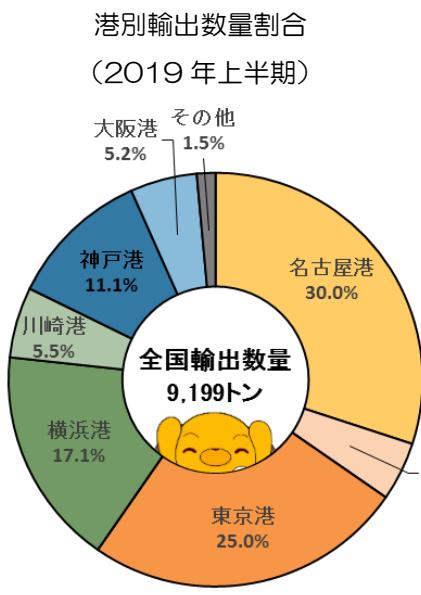
これは江戸時代のことわざです。『本朝食鑑』(1695年)によると、味噌は、「1日もなくてはならないもの」であり、「血を生かして百薬の毒を消す」、「消化をよくし閉塞を防ぐ」、「元気をつけて、血のめぐりをよくする」効果があるとしています。これが味噌に対する認識の礎となり、みそを基礎とした食生活が庶民の間で確立しました。保健のための栄養素として重宝されていた味噌。

味噌があれば、飢えをしのぎ健康を守ることが信じられ、農家では、どんな飢饉のときにも味噌の仕込みだけは欠かさなかったといわれています。



港別輸出実績①

P.8 参照



これは、味噌の長期保存が可能であることや、航空輸送に比べ、輸送コストを削減できることが理由として挙げられます。また、使用するコンテナは、輸送距離や季節によって異なり、短距離・冬場であれば、ドライコンテナを、長距離・夏場であれば、冷蔵コンテナを使用します。冷蔵コンテナは、味噌の温度上昇による色の変化を防ぎ、品質を一定に保つために使用されます。

－味噌の生産－

味噌の生産について、都道府県別でみると、第1位長野県、第2位愛知県と、管内の県が上位を飾る結果となっています。特に、第1位の長野県に関しては、全国シェアの約半数を占めています。

長野県で生産が普及した理由として、中央アルプスや南アルプスからの質の良い水を使えること、湿度や寒暖差が味噌作りに適していることが挙げられます。また、1923年（大正12年）の関東大震災で、被害を受けた東京に向けて、救援物資として送った味噌が好評を得たことも、味噌の生産が増加したきっかけとなっています。

味噌は、「米味噌」、「麦味噌」、「豆味噌」、「調合味噌（合わせ味噌）」の4種類に分類され、第1位の長野県では、信州味噌と呼ばれる「米味噌」が多く生産されています。また、「豆味噌」は、愛知、岐阜、三重の東海3県を中心に生産されており、愛知県岡崎市で有名なハ丁味噌も豆味噌の一種です。夏場に高温多湿となる東海地方では、味噌の酸敗が起こりやすいため、安全に味噌作りができるように、大豆と塩のみで製造する豆味噌が普及しました。

2018年 味噌（粉みそを含む）生産額上位5県

順位	都道府県	金額	シェア
全国		1,352.5億円	100%
1位	長野県	663.1億円	49.0%
2位	愛知県	105.0億円	7.8%
3位	群馬県	56.2億円	4.2%
4位	広島県	48.5億円	3.6%
5位	北海道	43.1億円	3.2%

経済産業省「工業統計」

－味噌の主原料－

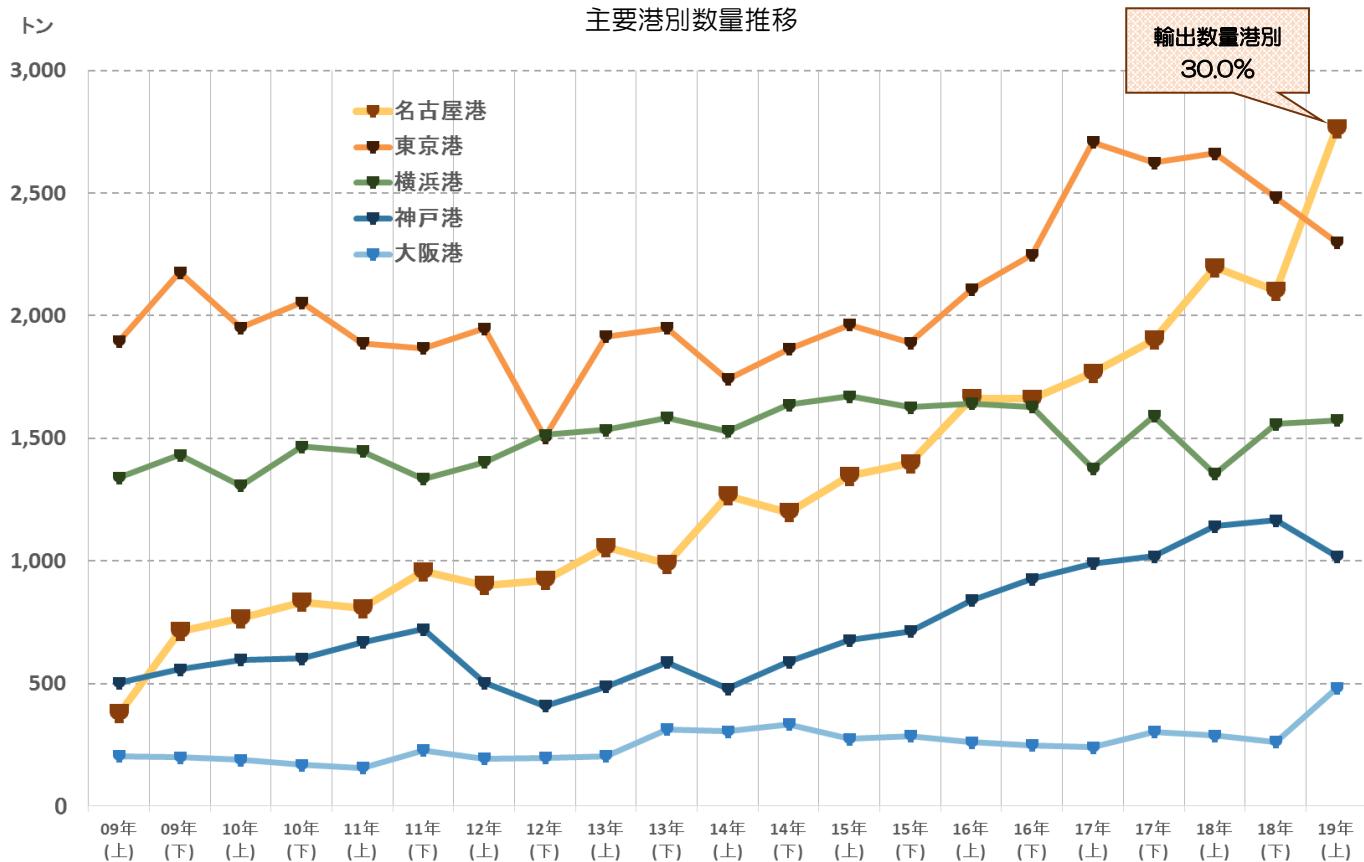
米味噌：米、大豆、塩

麦味噌：麦、大豆、塩

豆味噌：大豆、塩

港別輸出実績②

P.9 参照



※(上)は、上半期、(下)は下半期を表します。

次に、主要港の5港について、2009年からの数量推移を半期ベースでみてみます。

名古屋港の推移に着目すると、順調に右肩上がりとなっていることがわかります。2009年上半期時点では、第4位でしたが、2019年上半期では、過去最高を記録するとともに、1988年以降初めての第1位となりました。(輸出数量港別全国シェア30.0%)

このように、近年の伸びが顕著となっている背景としては、従来の愛知県からの輸出に加え、輸送コストの面から、長野県からの輸出が東京港から名古屋港へ集約されたことや、海外の加工工場への需要が増加していることが主な要因であると考えられます。

毎日のみそ汁。塩分の摂り過ぎ？

「みそは塩分が多いから、摂り過ぎないか心配」という人は少なくないと思います。

しかし、味噌自体の塩分量をみると多く思えますが、みそ汁として摂取するときは、1杯の塩分は、約1.2g～1.5gで、1日の食塩摂取量の目安から見ても、みそ汁の塩分は必ずしも多いとは言えません。

また、みその原料となる大豆は、発酵によってアミノ酸やビタミン類が生成され、栄養的に優れており、1つの食品で味噌ほど多くの栄養を含むものはほとんどないと言われています。

ビタミンB₁、ビタミンB₂、ビタミンB₆、ビタミンB₁₂、ビタミンE、ビタミンK、ナイアシン、葉酸、パントテン酸、ピオチン、ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム、リン、鉄、亜鉛、銅、ヨウ素、セレン、クロム、モリブデン、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、食物繊維



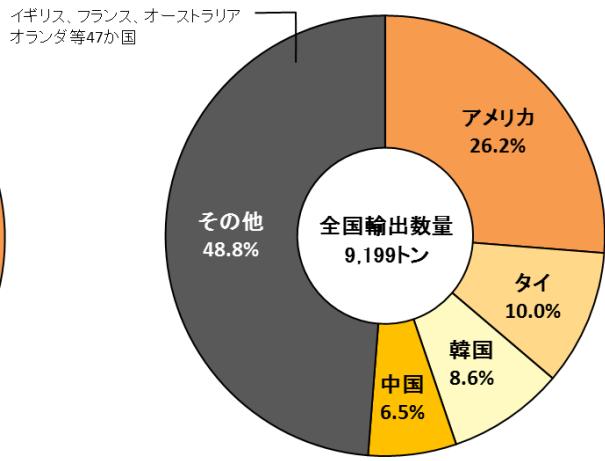
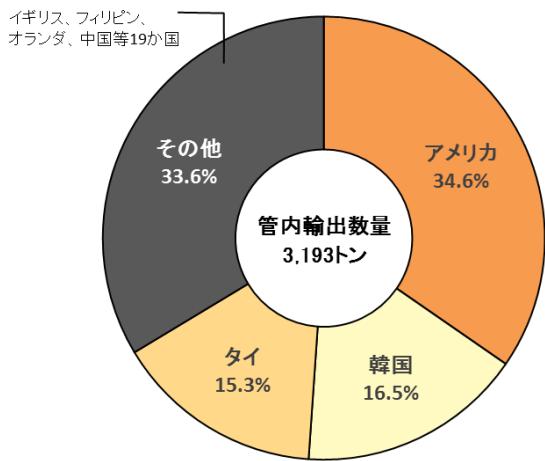
塩分
1.2～1.5g

—1日の目標量—
男性：9g未満
女性：7.5g未満

国別輸出実績①

P.10 参照

2019年上半期 国別数量シェア



次に、数量における2019年上半期の輸出相手国の割合を比較してみます。

全国・管内ともにアメリカが第1位という結果となっています。また、管内では、アメリカが総数量の約35%を占めており、続いて韓国、タイが上位となっています。

全国と管内の上位国を比較すると、管内において中国への輸出量が少ないことがわかります。この理由として、2011年の東日本大震災に伴う諸外国・地域の輸入規制措置により、中国が長野県を含む9都県の全ての食品、飼料の輸入を停止していることが考えられます。

原材料の調達先は？

味噌の原料となる“大豆”は、輸入大豆が多く、主にアメリカ産やカナダ産、中国産が使用されています。有機大豆を使用した有機味噌の生産や、コスト削減のために輸入していることが多いようです。



画像提供：ひかり味噌株式会社

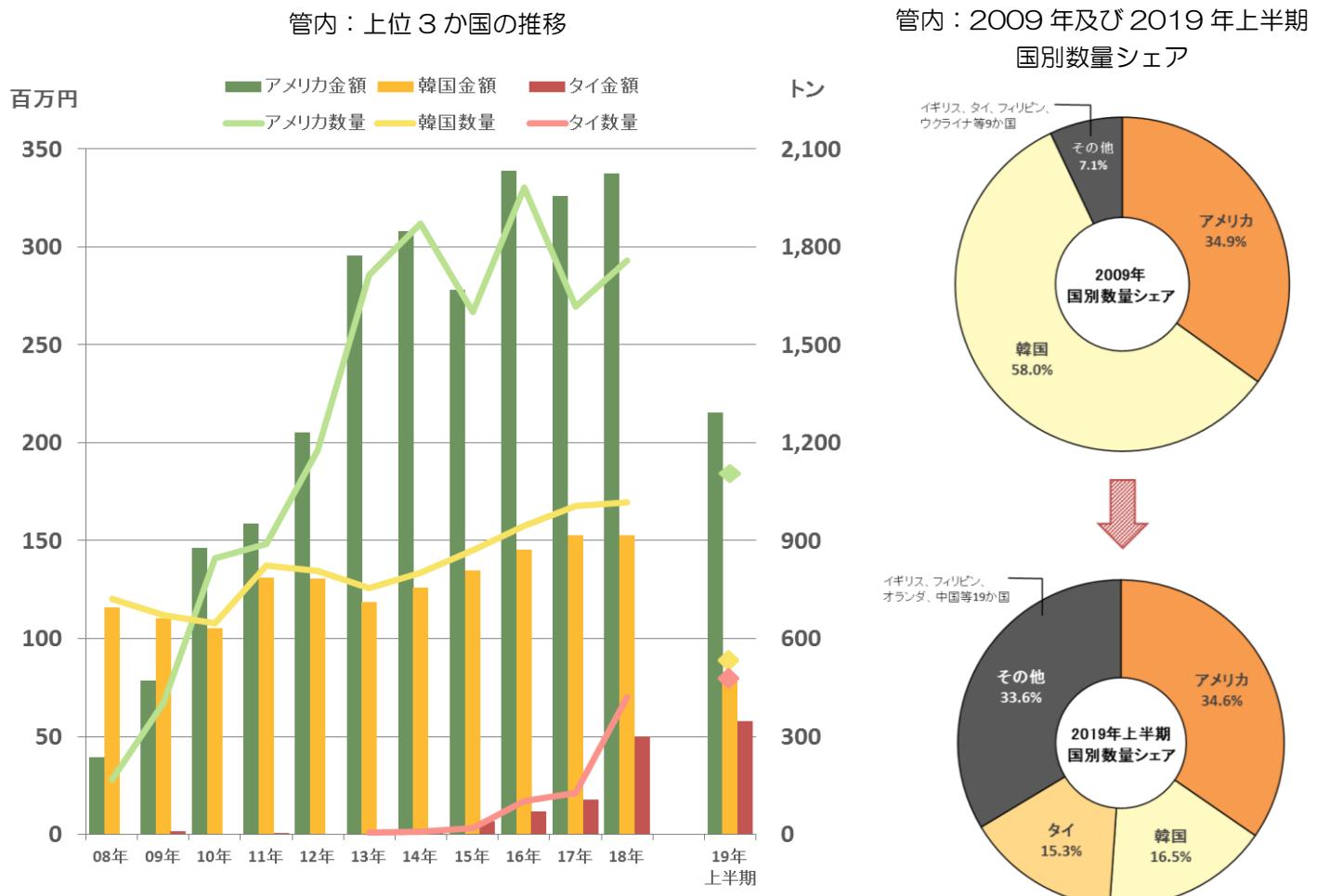
海外の味噌の使い方は？

味噌は、欧米や東南アジアでは、日本食店で、定食の一品や、お寿司に添える形で提供されることが多いようです。また、昔から日本人が多く住む韓国や台湾では、味噌に馴染みがあり、味噌汁のほかにもチゲ鍋等の調味料として使用されています。

また、国内消費用と海外消費用の味噌の違いについて、仕向国によって多少仕様を変更している場合もありますが、国内消費用と基本的に同じものを輸出しているようです。このことから、日本で親しまれている味噌の味がそのまま海外へと発信されていることが伺えます。

国別輸出実績②

P.10 参照



次に、上位 3 か国の管内推移（左図）をみてみます。

2010 年から 2019 年上半期までアメリカが管内輸出額 1 位を維持しており、2018 年と 10 年前である 2008 年と比較すると、約 8.5 倍とアメリカの伸びが顕著であることがわかります。また、韓国、タイについても増加傾向にあり、タイにおいては、輸出が増加し始めた 2013 年からわずか 5 年間で 36.1 倍と急増していることがわかります。

このように輸出が増加している理由として、

- アメリカでは、和食レストランや日系スーパーがチェーン展開していること
- 韓国では、昔から在留邦人が多く、味噌に馴染みがあること、
- タイでは、現地にある加工工場への輸出が増えていること

が挙げられます。

また、こうした理由の背景には、世界的な日本食ブームや、在日外国人及び在留邦人の増加、「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録が大きく寄与していると考えられます。

次に、2019 年上半期と 10 年前である 2009 年の国別数量シェア（右図）を比較してみます。2009 年では、韓国・アメリカの上位 2 か国で 90% 超のシェアを占めていましたが、2019 年上半期では、50% 程度となっています。輸出先で比較すると、11 か国・地域から、22 か国・地域と増加し、上位 3 か国だけでなく、世界各地から味噌が必要とされていることがわかると思います。

終わりに…

日本食ブームやヘルシーフードの影響により、日本の食文化は、世界から注目されており、それに伴い、“味噌”的認知度も高まっています。

2011年3月に発生した東日本大震災の影響により、一時は減少した味噌の輸出ですが、ユネスコ無形文化遺産に「和食」が登録され、味噌の認知度が高まることや、在日外国人の増加により、外国人が日本食に触れる機会が増えていることから、今後、世界各地への輸出量が増加することが考えられます。

また、現在、海外ではレストラン等で“和食”として提供されることが多い味噌ですが、和食の枠を超えて、様々なジャンルの料理に、味噌が利用されるようになり、“調味料”としての幅を広げることができれば、さらなる輸出の増加が期待できるのではないかでしょうか。味噌が世界の市場においてどのような動きを見せるのか、これからも注視していきたいと思います。



取材協力

ハナマルキ株式会社

ひかり味噌株式会社

マルサンアイ株式会社

味噌の種類

◆原料による分類

米味噌、麦味噌、豆味噌の3種類とこれらを混合した調合味噌に分けられます。
○米味噌…大豆に米麹を加えて作ったもの。
○麦味噌…大豆に麦麹を加えて作ったもの。
○豆味噌…大豆のみを原料としたもの。

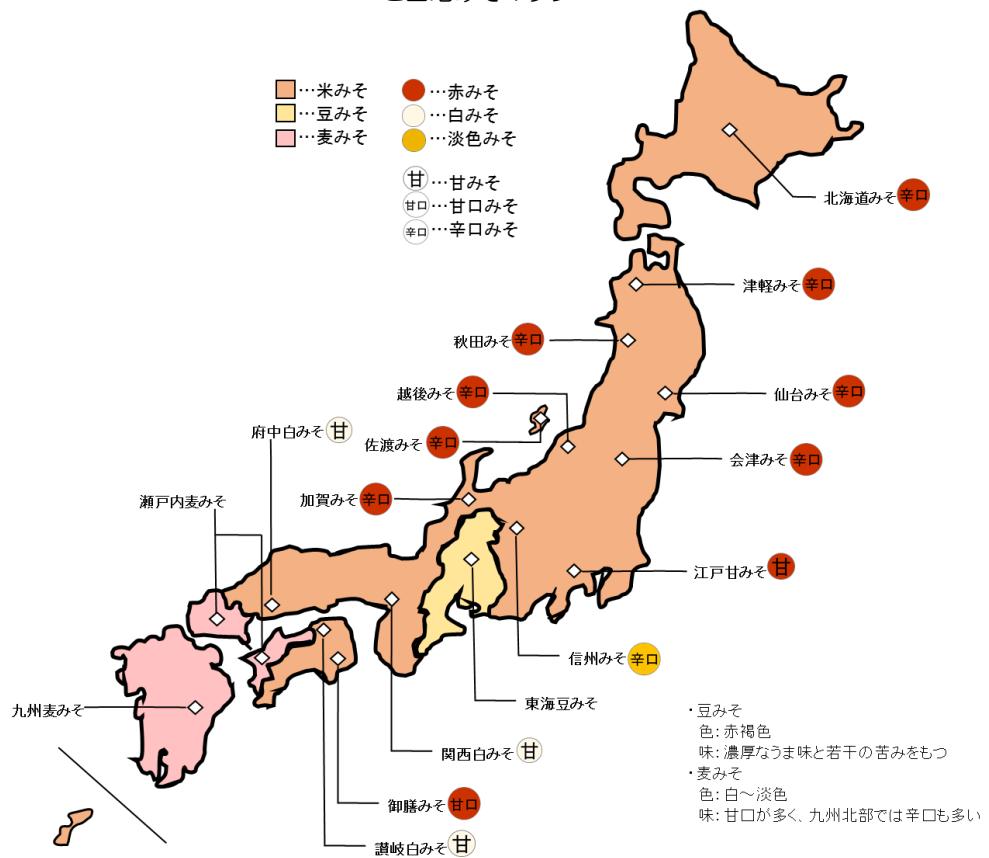
◆色による分類

出来上がりの色によって、赤系味噌、淡色系味噌、白味噌に分けられます。濃淡の差ができる理由は、主に発酵時の“メイラード反応”によって生まれます。メイラード反応とは、原料の大豆などに由来するアミノ酸が糖と反応して褐色に変化することを言います。この反応が起こった味噌ほど、濃い褐色を帯びます。

◆味による分類

甘口、辛口というように味によっても分けられます。辛さ加減は食塩の量と、「麹歩合」で決まります。麹歩合とは、原料の大豆に対する米や麦の比率を言い、塩分が一定であれば麹歩合が高いほど甘口になります。主に甘味噌、甘口味噌、辛口味噌の3種類に分けられます。

ご当地みそマップ



資料編

【年推移】管内

年	数量(KG)			金額(千円)	前年比	全国比	単価(KG)
		前年比	全国比				
1988年	115,758	—	—	17,280	—	—	149
1989年	111,170	96.0%	4.6%	19,341	111.9%	3.3%	174
1990年	280,787	252.6%	10.1%	54,165	280.1%	8.1%	193
1991年	175,913	62.7%	6.3%	32,941	60.8%	4.6%	187
1992年	300,395	170.8%	10.1%	69,522	211.1%	9.0%	231
1993年	274,069	91.2%	9.2%	55,629	80.0%	7.2%	203
1994年	275,072	100.4%	8.0%	54,039	97.1%	6.2%	196
1995年	398,821	145.0%	11.0%	90,958	168.3%	10.7%	228
1996年	314,916	79.0%	7.9%	55,691	61.2%	6.2%	177
1997年	396,117	125.8%	9.4%	68,199	122.5%	7.1%	172
1998年	455,892	115.1%	10.1%	75,056	110.1%	7.6%	165
1999年	591,716	129.8%	11.4%	99,048	132.0%	9.2%	167
2000年	686,757	116.1%	11.8%	110,280	111.3%	9.5%	161
2001年	891,502	129.8%	14.4%	138,428	125.5%	10.8%	155
2002年	826,592	92.7%	13.4%	129,098	93.3%	9.9%	156
2003年	793,889	96.0%	12.4%	127,849	99.0%	9.6%	161
2004年	672,087	84.7%	9.2%	105,647	82.6%	7.1%	157
2005年	622,205	92.6%	8.0%	101,411	96.0%	6.4%	163
2006年	703,567	113.1%	8.0%	116,366	114.7%	6.6%	165
2007年	748,206	106.3%	8.1%	130,587	112.2%	7.1%	175
2008年	917,425	122.6%	9.3%	162,121	124.1%	8.1%	177
2009年	1,158,386	126.3%	11.8%	202,254	124.8%	10.0%	175
2010年	1,599,855	138.1%	15.6%	271,511	134.2%	12.9%	170
2011年	1,815,257	113.5%	17.3%	316,099	116.4%	14.8%	174
2012年	2,139,735	117.9%	21.2%	366,470	115.9%	17.7%	171
2013年	2,807,184	131.2%	23.8%	480,611	131.1%	19.8%	171
2014年	3,384,479	120.6%	27.5%	548,119	114.0%	21.8%	162
2015年	3,377,986	99.8%	25.9%	594,177	108.4%	21.6%	176
2016年	4,197,895	124.3%	28.4%	702,303	118.2%	22.9%	167
2017年	4,017,107	95.7%	25.1%	719,746	102.5%	21.6%	179
2018年	4,713,184	117.3%	27.7%	812,445	112.9%	23.1%	172

2019年 上半期	3,192,587	138.8%	34.7%	547,680	133.5%	28.6%	172
--------------	-----------	--------	-------	---------	--------	-------	-----

【年推移】全国

数量(KG)	前年比			金額(千円)	前年比	単価(KG)
		前年比	単価(KG)			
2,172,891	—	525,189	—	242		
2,414,648	111.1%	582,305	110.9%	241		
2,780,814	115.2%	671,951	115.4%	242		
2,771,150	99.7%	719,511	107.1%	260		
2,972,458	107.3%	776,633	107.9%	261		
2,992,684	100.7%	771,011	99.3%	258		
3,432,792	114.7%	868,321	112.6%	253		
3,624,882	105.6%	848,415	97.7%	234		
3,988,907	110.0%	904,695	106.6%	227		
4,233,830	106.2%	962,040	106.3%	227		
4,531,300	107.0%	982,586	102.1%	217		
5,175,016	114.2%	1,080,279	109.9%	209		
5,796,737	112.0%	1,160,251	107.4%	200		
6,181,956	106.6%	1,284,478	110.7%	208		
6,160,771	99.7%	1,306,297	101.7%	212		
6,425,053	104.3%	1,333,605	102.1%	208		
7,277,909	113.3%	1,496,833	112.2%	206		
7,754,715	106.6%	1,595,306	106.6%	206		
8,746,504	112.8%	1,771,476	111.0%	203		
9,252,038	105.8%	1,830,415	103.3%	198		
9,882,004	106.8%	1,989,603	108.7%	201		
9,817,900	99.4%	2,024,571	101.8%	206		
10,239,900	104.3%	2,098,062	103.6%	205		
10,502,811	102.6%	2,130,476	101.5%	203		
10,083,269	96.0%	2,068,030	97.1%	205		
11,806,554	117.1%	2,432,394	117.6%	206		
12,300,937	104.2%	2,515,105	103.4%	204		
13,043,660	106.0%	2,756,201	109.6%	211		
14,759,517	113.2%	3,061,022	111.1%	207		
16,017,035	108.5%	3,333,145	108.9%	208		
17,009,506	106.2%	3,518,002	105.5%	207		

9,199,357	109.4%	1,912,751	108.5%	208
-----------	--------	-----------	--------	-----

2019年上半期全国輸出港別

港	数量(KG)			金額(千円)	前年比	構成比	単価(KG)
		前年比	構成比				
名古屋	2,762,146	125.8%	30.0%	482,879	122.1%	25.2%	175
東京	2,299,879	86.4%	25.0%	419,059	88.9%	21.9%	182
横浜	1,572,825	116.1%	17.1%	376,449	113.8%	19.7%	239
神戸	1,019,158	89.3%	11.1%	301,584	95.2%	15.8%	296
大阪	480,153	167.0%	5.2%	125,941	140.2%	6.6%	262
川崎	507,877	112.2%	5.5%	96,324	111.7%	5.0%	190
清水	423,600	435.8%	4.6%	62,939	475.4%	3.3%	149
成田	10,605	113.0%	0.1%	9,952	122.6%	0.5%	938
博多	23,402	78.7%	0.3%	9,918	80.6%	0.5%	424
苦小牧	30,340	200.7%	0.3%	7,035	200.4%	0.4%	232
千葉	13,629	286.6%	0.1%	5,506	206.4%	0.3%	404
広島	22,600	61.0%	0.2%	3,702	67.7%	0.2%	164
堺	16,020	14.1%	0.2%	2,647	11.7%	0.1%	165
関西空港	2,300	全増	0.0%	1,813	全増	0.1%	788
石狩	3,464	全増	0.0%	1,441	全増	0.1%	416
中部空港	3,150	全増	0.0%	1,116	全増	0.1%	354
熊本	850	212.5%	0.0%	850	214.1%	0.0%	1000
福山	922	51.2%	0.0%	785	225.6%	0.0%	851
羽田	1,069	213.8%	0.0%	779	192.8%	0.0%	729
四日市	3,691	56.2%	0.0%	746	56.6%	0.0%	202
福岡空港	570	全増	0.0%	437	全増	0.0%	767
千歳	400	全増	0.0%	389	全増	0.0%	973
鹿児島	447	全増	0.0%	243	全増	0.0%	544
下関	260	63.7%	0.0%	217	78.1%	0.0%	835
総額	9,199,357	109.4%	100.0%	1,912,751	108.5%	100.00%	208



税関イメージキャラクター「カスタム君」

半期推移:名古屋港

	数量(KG)	前年比	金額(千円)	前年比	単価(KG)
2009年 上半期	377,402	83.9%	68,011	89.6%	180
2009年 下半期	712,225	213.8%	123,408	205.6%	173
2010年 上半期	765,858	202.9%	138,867	204.2%	181
2010年 下半期	831,970	116.8%	131,510	106.6%	158
2011年 上半期	806,079	105.3%	142,570	102.7%	177
2011年 下半期	957,399	115.1%	160,085	121.7%	167
2012年 上半期	901,357	111.8%	162,033	113.7%	180
2012年 下半期	921,396	96.2%	152,439	95.2%	165
2013年 上半期	1,056,386	117.2%	200,471	123.7%	190
2013年 下半期	987,411	107.2%	171,522	112.5%	174
2014年 上半期	1,266,771	119.9%	215,864	107.7%	170
2014年 下半期	1,198,216	121.3%	204,014	118.9%	170
2015年 上半期	1,346,841	106.3%	262,955	121.8%	195
2015年 下半期	1,398,066	116.7%	249,528	122.3%	178
2016年 上半期	1,661,388	123.4%	297,853	113.3%	179
2016年 下半期	1,660,126	118.7%	286,941	115.0%	173
2017年 上半期	1,767,055	106.4%	340,534	114.3%	193
2017年 下半期	1,901,761	114.6%	332,289	115.8%	175
2018年 上半期	2,196,452	124.3%	395,539	116.2%	180
2018年 下半期	2,100,931	110.5%	360,109	108.4%	171
2019年 上半期	2,762,146	125.8%	482,879	122.1%	175

半期推移:東京港

数量(KG)	前年比	金額(千円)	前年比	単価(KG)
1,895,355	81.3%	348,446	91.0%	184
2,175,511	116.1%	378,877	120.1%	174
1,950,716	102.9%	332,161	95.3%	170
2,052,652	94.4%	349,398	92.2%	170
1,886,970	96.7%	317,641	95.6%	168
1,867,075	91.0%	324,172	92.8%	174
1,946,793	103.2%	331,456	104.3%	170
1,502,896	80.5%	261,051	80.5%	174
1,914,909	98.4%	334,631	101.0%	175
1,949,356	129.7%	326,102	124.9%	167
1,740,063	90.9%	314,749	94.1%	181
1,863,758	95.6%	322,279	98.8%	173
1,963,429	112.8%	357,007	113.4%	182
1,889,518	101.4%	343,379	106.5%	182
2,106,799	107.3%	396,184	111.0%	188
2,248,325	119.0%	392,572	114.3%	175
2,707,300	128.5%	476,606	120.3%	176
2,622,752	116.7%	458,300	116.7%	175
2,661,397	98.3%	471,405	98.9%	177
2,482,556	94.7%	453,300	98.9%	183
2,299,879	86.4%	419,059	88.9%	182

半期推移:横浜港

	数量(KG)	前年比	金額(千円)	前年比	単価(KG)
2009年 上半期	1,338,814	95.7%	299,201	93.7%	223
2009年 下半期	1,432,247	101.8%	316,427	101.3%	221
2010年 上半期	1,306,389	97.6%	300,981	100.6%	230
2010年 下半期	1,466,399	102.4%	348,876	110.3%	238
2011年 上半期	1,446,517	110.7%	325,842	108.3%	225
2011年 下半期	1,334,906	91.0%	299,707	85.9%	225
2012年 上半期	1,403,156	97.0%	322,384	98.9%	230
2012年 下半期	1,513,744	113.4%	343,203	114.5%	227
2013年 上半期	1,533,339	109.3%	355,316	110.2%	232
2013年 下半期	1,584,319	104.7%	370,613	108.0%	234
2014年 上半期	1,529,825	99.8%	366,302	103.1%	239
2014年 下半期	1,636,651	103.3%	373,829	100.9%	228
2015年 上半期	1,671,442	109.3%	383,979	104.8%	230
2015年 下半期	1,626,550	99.4%	358,321	95.9%	220
2016年 上半期	1,641,992	98.2%	382,495	99.6%	233
2016年 下半期	1,627,865	100.1%	369,986	103.3%	227
2017年 上半期	1,376,826	83.9%	331,258	86.6%	241
2017年 下半期	1,590,076	97.7%	381,502	103.1%	240
2018年 上半期	1,354,775	98.4%	330,737	99.8%	244
2018年 下半期	1,557,484	98.0%	361,140	94.7%	232
2019年 上半期	1,572,825	116.1%	376,449	113.8%	239

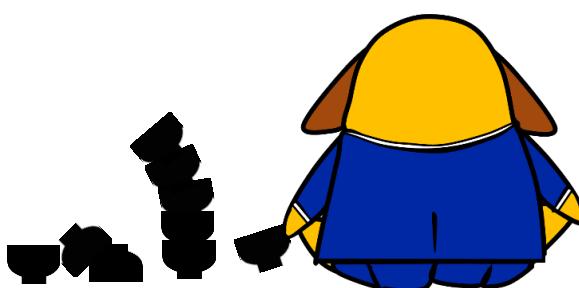
半期推移:神戸港

数量(KG)	前年比	金額(千円)	前年比	単価(KG)
503,603	98.2%	136,544	106.7%	271
557,032	118.8%	144,538	111.0%	259
597,054	118.6%	167,972	123.0%	281
601,899	108.1%	158,618	109.7%	264
668,378	111.9%	183,934	109.5%	275
722,140	120.0%	175,870	110.9%	244
503,242	75.3%	139,448	75.8%	277
409,434	56.7%	126,139	71.7%	308
487,831	96.9%	160,888	115.4%	330
585,990	143.1%	172,450	136.7%	294
478,039	98.0%	158,413	98.5%	331
588,779	100.5%	181,773	105.4%	309
676,090	141.4%	210,064	132.6%	311
712,864	121.1%	214,484	118.0%	301
838,901	124.1%	246,980	117.6%	294
925,421	129.8%	250,464	116.8%	271
989,069	117.9%	271,401	109.9%	274
1,019,258	110.1%	263,168	105.1%	258
1,141,278	115.4%	316,915	116.8%	278
1,165,210	114.3%	307,581	116.9%	264
1,019,158	89.3%	301,584	95.2%	296

半期推移:大阪港

	数量(KG)	前年比	金額(千円)	前年比	単価(KG)
2009年 上半期	203,903	102.02%	50,663	100.61%	248
2009年 下半期	199,611	96.1%	50,905	88.2%	255
2010年 上半期	188,491	92.4%	46,788	92.4%	248
2010年 下半期	168,554	84.4%	42,500	83.5%	252
2011年 上半期	155,817	82.7%	41,692	89.1%	268
2011年 下半期	228,171	135.4%	52,687	124.0%	231
2012年 上半期	193,476	124.2%	56,319	135.1%	291
2012年 下半期	197,693	86.6%	48,718	92.5%	246
2013年 上半期	203,533	105.2%	47,904	85.1%	235
2013年 下半期	313,547	158.6%	78,354	160.8%	250
2014年 上半期	303,931	149.3%	70,683	147.6%	233
2014年 下半期	332,926	106.2%	79,902	102.0%	240
2015年 上半期	274,158	90.2%	69,878	98.9%	255
2015年 下半期	285,509	85.8%	90,961	113.8%	319
2016年 上半期	259,648	94.7%	80,307	114.9%	309
2016年 下半期	247,680	86.8%	79,610	87.5%	321
2017年 上半期	239,459	92.2%	74,584	92.9%	311
2017年 下半期	302,183	122.0%	94,808	119.1%	314
2018年 上半期	287,592	120.1%	89,821	120.4%	312
2018年 下半期	262,838	87.0%	82,708	87.2%	315
2019年 上半期	480,153	167.0%	125,941	140.2%	262

飲みすぎ注意だワ…



2019年上半年輸出国別数量(KG)

	管内	構成比	全国	構成比
アメリカ合衆国	1,104,998	34.6%	2,414,305	26.2%
大韓民国	526,511	16.5%	787,817	8.6%
タイ	487,711	15.3%	915,989	10.0%
フランス	237,284	7.4%	343,722	3.7%
台湾	215,034	6.7%	448,919	4.9%
英國	128,983	4.0%	405,004	3.0%
フィリピン	82,600	2.6%	267,657	5.6%
オランダ	80,087	2.5%	273,400	3.0%
カナダ	74,192	2.3%	511,866	4.4%
ベトナム	55,600	1.7%	196,353	2.9%
ベルギー	51,270	1.6%	67,030	0.7%
スウェーデン	34,300	1.1%	152,360	2.1%
シンガポール	30,788	1.0%	272,033	0.3%
ポーランド	24,000	0.8%	50,448	1.7%
メキシコ	16,000	0.5%	18,316	2.7%
中華人民共和国	10,050	0.3%	596,464	2.6%
ドイツ	9,340	0.3%	248,108	0.5%
スイス	9,298	0.3%	31,853	0.2%
香港	7,841	0.2%	235,272	6.5%
ニュージーランド	2,600	0.1%	86,589	0.9%
アラブ首長国連邦	2,100	0.1%	40,554	0.4%
マレーシア	2,000	0.1%	157,946	1.7%
その他			677,352	7.4%
総量	3,192,587	100.0%	9,199,357	100.00%

2009年輸出国別数量(KG)

	管内	構成比	全国	構成比
	404,633	34.9%	3,417,633	34.8%
	671,992	58.0%	1,000,622	10.2%
	12,000	1.0%	361,435	3.7%
	—	—	411,176	4.2%
	—	—	590,323	6.0%
	49,990	4.3%	412,941	4.2%
	9,840	0.8%	134,622	1.4%
	—	—	136,297	1.4%
	300	0.0%	605,040	6.2%
	—	—	197,649	2.0%
	—	—	18,576	0.2%
	—	—	132,861	1.4%
	1,048	0.1%	330,503	3.4%
	—	—	720	0.0%
	—	—	5,651	0.1%
	—	—	269,372	2.7%
	—	—	272,151	2.8%
	—	—	15,853	0.2%
	2,552	0.2%	330,825	3.4%
	—	—	108,834	1.1%
	—	—	31,176	0.3%
	—	—	94,051	1.0%
	6,031	0.5%	939,589	9.6%
	1,158,386	100.0%	9,817,900	100.00%

【年推移】管内：アメリカ

年	数量(KG)	金額(千円)	単価(KG)
2008年	168,713	39,565	235
2009年	404,633	78,438	194
2010年	846,421	146,217	173
2011年	889,156	158,962	179
2012年	1,177,569	205,263	174
2013年	1,713,312	295,729	173
2014年	1,871,366	307,933	165
2015年	1,599,436	278,081	174
2016年	1,982,424	338,970	171
2017年	1,618,143	325,909	201
2018年	1,758,864	337,346	192

【年推移】管内：韓国

数量(KG)	金額(千円)	単価(KG)
722,947	115,735	160
671,992	110,318	164
648,296	105,354	163
824,850	131,077	159
806,790	130,423	162
754,442	118,617	157
802,382	126,010	157
869,727	134,591	155
946,411	145,504	154
1,004,988	152,871	152
1,016,408	152,931	150

【年推移】管内：タイ

数量(KG)	金額(千円)	単価(KG)
—	—	—
12,000	1,716	143
—	—	—
2,500	726	290
—	—	—
6,700	1,383	206
9,690	1,970	203
19,960	6,837	343
101,280	11,778	116
126,414	17,839	141
421,046	49,882	118

2019年 上半期	1,104,998	215,456	195
--------------	-----------	---------	-----

526,511	80,620	153
---------	--------	-----

487,711	57,786	118
---------	--------	-----

毎月30日は“みその日”

30日が「みそか」と読まれることから 1982年、全国味噌工業協同組合連合会（全味工連）に制定されました。みその日にはぜひ栄養価の高い味噌を使った料理を食べ、身体を健康に保つ活動を始めるきっかけとするのも良いかもしれませんね！

※本資料を引用する場合、名古屋税関の資料による旨を注記して下さい。

※本資料に関するお問い合わせは、

名古屋税関 調査部 調査統計課 (TEL052-654-4176) まで
お願いします。

また、貿易統計は名古屋税関HPでもご覧いただけます。

《 <http://www.customs.go.jp/nagoya/> 》